資料２

令和３年６月３日
統計委員会（人口・社会統計部会）

国際的な障害者統計の整備に関するワシントングループによる指標

長野保健医療大学　特任教授
北村弥生

目次

Ⅰ　国連における障害者統計に関する活動経緯

Ⅱ　ワシントン・グループの概要

Ⅲ　短い質問群（short set）

Ⅳ　将来的な対応について

Ⅰ　国連における障害者統計に関する活動経緯

文書名	記載内容
知的障害者の権利宣言（1971）	なし
障害者の権利宣言(1975年)	なし
国連総会の決議（決議番号36/77, 1981）	世界中の障害者数を５億人、そのうち４億人が低所得諸国で生活していることを指摘
障害者に関する世界行動計画(1982、国連総会決議37/52)	・ほとんどの国で10人に１人はなんらかの障害を持っていること、障害に応じたサービスを受けられない地域に住んでいる人が3.5億人はいると記載 ・194,195頁：障害者に関する状況の評価と評価指標の開発を要請。 ・198頁：**国連統計部**(United Nations Statistic Division)**に対して、「他の専門機関や地域委員会等と共に、開発途上国と協力し、さまざまな障害に関して、全数調査もしくは標本抽出調査によるデータ収集の現実的・実際的システムの開発、統計資料利用のための技術的マニュアルの作成」を要請**
国連統計部&国連社会開発・人道問題センター	障害者統計に関する専門家会議を開催(1984)
国連統計部	「障害者統計の開発：事例研究（Development of Statistics of Disabled Persons : Case Studies）」を刊行(1986)。エジプト、イラク、ヨルダン、レバノン、シリア・アラブ共和国の５か国を対象。

文献 1) 中野善達. 障害者に関する統計、 https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/un/unpwd/po92po97.html
文献 2) 北村弥生、入部寛. 国際連合などの文書に見る障害者に関する統計の目標設定.　国リハ紀要 (2014).

文書名	記載内容
国連統計部	国連障害者統計データベース（United Nations Disability Statistics Data Base: DISTAT）を公開(1988)：75か国の国勢調査、全国調査による障害者数と設問。 Questions used to identify persons with disabilities in DISTAT, 1973 - 1996
国連統計部	障害者統計便覧 (Disability Statistics Compendium) を出版し(1990)、55か国の障害者統計を比較(35頁）。障害者の人口に対する比率（障害発生率： disability prevalence)は、最大で20.9%（オーストラリア）、最小で0.2%（チリ）と差が大きく、国際的に比較可能な障害の基準作りの必要性が示された。日本は昭和55年調査結果を提供。
障害者の機会均等化に関する基準規則（国連総会決議48/96, 1993)	原則13 情報と調査・研究、１：各国が障害者の生活条件に関する男女別の統計とその他の情報を定期的に収集すべき。２：いろいろな障害グループに関する統計、サービスやプログラムに関するデータを集めたデータバンクの設立を検討すべき。３：障害者とその家族の生活に関する社会的・経済的課題と参加に関する課題の調査・研究（障害の原因やタイプ、人数などを含む）の遂行。
国連統計部	Disability census questions, 1995 - 2004
国連統計部	Manual for the Development of Statistical Information for Disability: Programmes and Policies, 1996
国連統計部	Guidelines and Principles for the Development of Disability Statistics, 2001

Ⅱ　ワシントングループの概要

（以下「ＷＧ」と表示）

１．ＷＧの目的

1）2001年ニューヨークで、「障害の測度measurementに関する国際セミナー」が開催された。その会合で、参加者たちは、とりわけ低・中所得の国々で障害に関する既存のデータ量が少なく、その質も低いことが多いという意見で合意した。さらにセミナーでは、障害者に関する統計において、国際的に比較可能で高品質なデータ収集の必要性と同時に、共通の定義・概念・基準・方法を策定する必要性が認められた。そうして、**一国内での使用および国際的な比較のために、人口ベースでの障害測度を用いた基準となる指標の開発が求められることになったのである。**

2）この喫緊のニーズに対応するため、**国連統計委員会シティ・グループの一つとして、障害統計に関するワシントン・グループ（WG）　が組織された。WGの主目的は、国勢調査やその他の全国調査に適した障害に関する統計を作成するうえで、国際協力を推し進めて調整することである。そして、より大きな目標は、世界規模で比較可能な障害に関する基本情報を提供することである。**

文献 3) Washington Group. An Introduction to the Washington Group on Disability Statistics Question Sets. 2020.

２．ＷＧの組織

- 米国疾病対策センター衛生統計センターが事務局を務める。
- 会合は年に１回、秋に３日間程度開催される。開催地は、原則として毎回異なり、障害統計を強化したいと事務局が考える国、事務局に資金提供している国などで実施されている。
- グループのメンバーは、政府統計局と国際的な障害者に関する組織（世界保健機構、国際障害者同盟など）であるが、ワーキンググループに国際組織（ユニセフなど）が参加することもある。
- 近年は、統計部門だけでなく厚生労働系、社会開発系の省庁からの参加もある。年に１度の会議には80名程度が参加し、事務局とワーキンググループが行っている尺度の開発状況が報告され、今後の方針への意見を参加国に求める。

（参考）ＷＧの開催都市の状況

回	開催都市（国）	回	開催都市（国）	回	開催都市（国）	回	開催都市（国）
1	Washington D.C. (U.S.A.)	6	Kampala (Uganda)	11	Southampton (Bamuda)	16	Pretoria (South Africa)
2	Ottawa (Canada)	7	Dublin (Ireland)	12	Bangkok (Thai)	17	Sydney, (Australia)
3	Brussel (Bergie)	8	Manila (Philippine)	13	Amman (Jordan)	18	Rome, Italy
4	Bangkok (Thai)	9	Dar es Salaam (Tanzania)	14	Buenos Aires (Argentina)	19	Buenos Aires (Argentina)
5	Rio de Janeiro (Brazil)	10	Luxembourg	15	Copenhagen (Denmark)	20	Zoom

３．ＷＧの成果

1. **短い質問群(WG-SS)6問の開発(2006)：国勢調査及び全国調査で使用する**
2. **拡張質問群(WG-ES)37問の開発(2010)：地域特性に合わせて微修正し、さらに詳しい調査に使用する。ヨーロッパ、ESCAP諸国、南米、米国（National Health Interview Survey)、カナダで、地域特性に合わせて修正して使用開始された(2010-)。米国のNHISは４年に1回、約1700件のデータを蓄積し(2010, 2014, 2018)、解析している。**
3. 短い質問群強化版（WG-SS Enhanced)：不安・憂うつ、上肢機能を追加
4. **WG/UNICEF-CFM Child Function Module子ども用モデュール（2-5才用、6-17才用, 2016）：26か国(Multiple Indicator Cluster Survey 6) （71か国）、英語、フランス語、スペイン語、ベトナム語、ロシア語、中国語、アラビア語、ポルトガル語、クメール語　　教師版（5-17歳）、ガイドライン、FAQは精査中**
5. **WG/ILO LFS-DM労働力調査における障害に関するモデュール(2020)**
6. WG/UNICEF-CFM Inclusive Education Module(IEM) インクルーシブ教育モデュール、非就学児用
7. 心理社会モデュール
8. 環境モデュール

・利用ガイド、FAQ、翻訳の注意、研修、ビデオ制作、COIV19の影響

ワシントングループの成果書籍	・Altman, B. International Measurement of Disability Purpose. Method and Application. Springer. 2016. ・Altman, B. International Views on Disability Measures: Moving Toward Comparative Measurement. JAI Press. 2006.

４．ＷＧの今後の課題

① 心理社会的モデュール（３～5年程度）

② 教育環境モデュール（２～４年程度）
WG/UNICEF CFM 教師版（2年程度）

③ 環境モデュール（検討中）

④ 各国のデータの集積と分析（公表フォーマット案, 2020）

⑤ 広報（指標、活用方法、翻訳、FAQ、解析：随時更新）

Ⅲ　短い質問群（short set）

（以下「WG-SS」と表示）

１． WG-SS開発の経緯

- WGの活動以前の各国の調査では、障害の識別には「あなたは障害がありますか？」という質問が使われることが多かった。しかし、障害に対する偏見から「障害がある」と回答しない場合が多かった。
- 次に多かったのは、診断名や医学的な症状のリストに合致するかを尋ねることであった。しかし、この方法の欠点は、症状のリストには漏れが出ること、医学的診断を受けることができない人が漏れること、同じ診断名であっても状態は異なることであった。

⬇

- そこで、WG-SSでは、「視覚」「聴覚」「移動」「認知」「セルフケア」「コミュニケーション」に機能制限があるかを尋ねる。短い質問セット６つを使うことが困難な場合は、最初の４つを使用することが勧められた。
- また、従来の調査では、「障害」を「何もできない状態」と捉える場合が多く、きわめて重度の障害しか検出されなかった。そこで、２段階ではなく４段階の選択肢を示し、「全くできない」と「とても苦労する」を「障害がある」と分類することをWGは勧めている。
- なお、これら検討は、国際生活機能分類も踏まえて行われた。

2．WG-SSの内容

文献 4) 江藤文夫．障害統計のツール開発の国際動向　－国連ワシントン・グループ会議の活動を中心に．厚労科研 平成22～24年度総合報告書「障害認定の在り方に関する研究」, 2013.

WG-SS (2006)　Because of a health problem :	短い質問群　健康の問題により：
1) Do you have difficulty seeing even if wearing glasses?	あなたは眼鏡を着用しても見るのに苦労しますか？
2) Do you have difficulty hearing even if using a hearing aid?	あなたは補聴器をつけても聞くのに苦労しますか？
3) Do you have difficulty walking or climbing stairs?	あなたは歩いたり階段を登ったりするのに苦労しますか？
4) Do you have difficulty remembering or concentrating?	あなたは思い出したり集中したりするのに苦労しますか？
5) Do you have difficulty with (self-care such as) washing all over or dressing?	あなたは身体を洗ったり衣服を着たりする（様なセルフケアで）のに苦労しますか？
6) Using your usual (customary) language, do you have difficulty communicating (for example understanding or being understood by others)?	あなたは普通（日常的）の言語を使用して意思疎通することに苦労しますか？（たとえば、理解したり理解されたりすること）

	1	2	3	4
Response categories	No - no difficulty	Yes - some difficulty	Yes - a lot of difficulty	Cannot do at all
選択肢	いいえ、苦労はありません	はい、多少苦労します	はい、とても苦労します	全くできません

注）この表の和訳は原文の直訳（仮訳）であり、定訳はない。日本の統計調査に導入するに当たって検討する余地はある。

（参考）国際生活機能分類
（International Classification on Functioning）

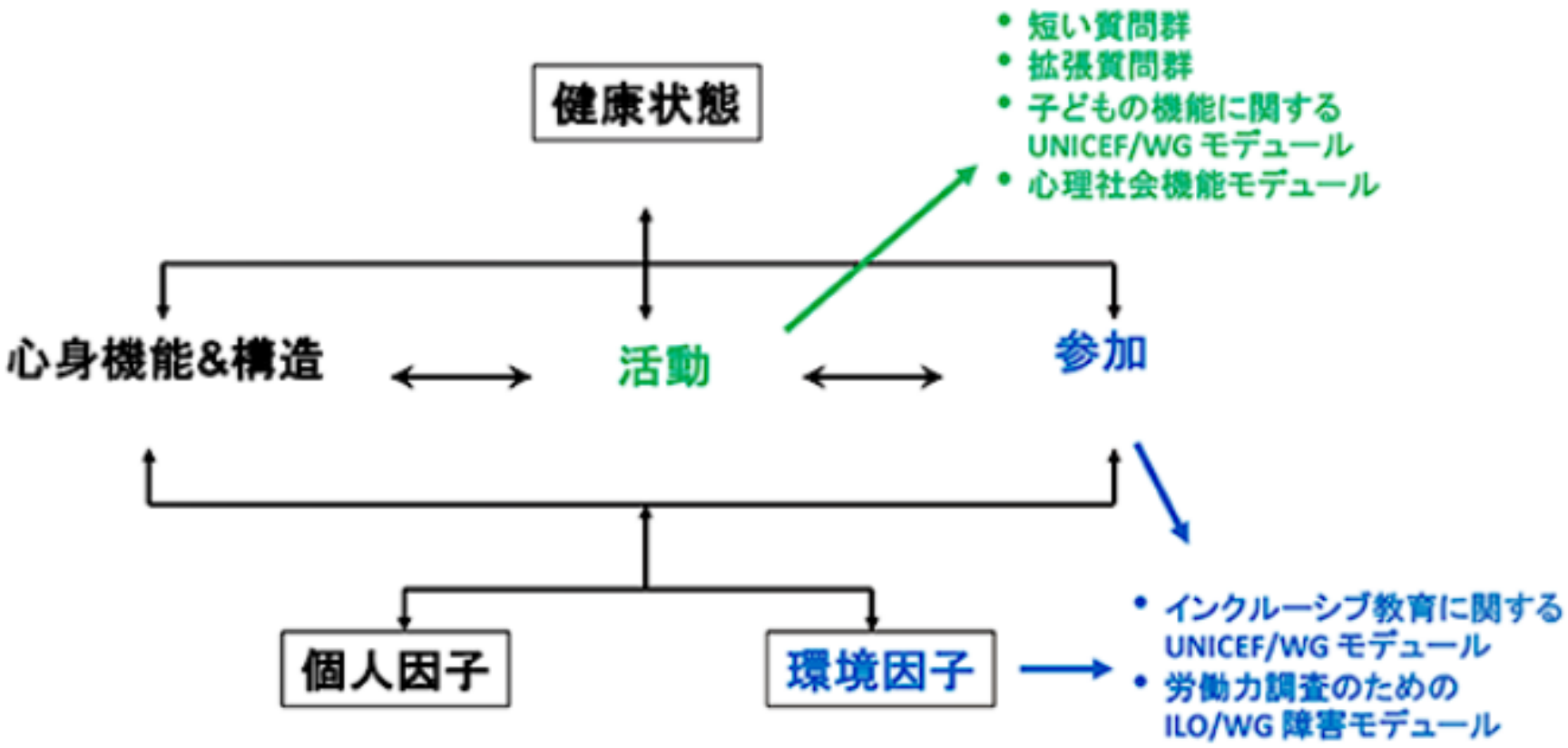

図１　国際機能分類モデルとワシントン・グループの指標との関係（Daniel Mont氏による図を改変）

国際障害分類
ICIDH

疾患・変調
Disease/Disorder
↓
機能・形態障害
Impairment
↓
能力障害
Disability
↓
社会的不利
Handicap

文献 5）北村弥生. 第17回　国連障害統計に関するワシントン・グループ会議に出席して.　国リハニュース 363（平成30年1月号）

３． WG-SSに対する評価

(i) 国連統計部（UNSD）（参照：人口調査や家庭調査における方針と推奨事項、第3改訂版）や、国際連合欧州経済委員会（UNECE)、欧州統計学者評議会などに、2020年時点の国勢調査で、障害に関する情報収集に適した方法として認められている。

(ii)80以上の国々で、国勢調査等に用いられている。（85か国：20回会議）

(iii)国際援助プログラムであるDFID（国際開発省、イギリス）やDFAT（外務省、オーストラリア）において、障害に関するデータ収集の際に、全てのプログラムとプロジェクトでWG-SSを活用することが推進されている。

(iv)USAID（アメリカ合衆国国際開発庁）が実施するDHS（人口保健調査）や、UNICEFがスポンサーになっている約70のMICS（複数の指標を用いた集団調査)、そして世界銀行がスポンサーになっている約70のLSMS (生活水準測定調査) などに、WG-SSが活用されている。

(v)人道的見地から、障害の状態を判定する手段として活用されている（シリアの難民キャンプで使用された）。

(vi)国際連合経済社会局の援助下にある障害に関するデータの専門家グループによって、障害の状態から見て、2030年の持続可能な開発目標における議題を分類する手段として支持されている。

文献 3) Washington Group. An Introduction to the Washington Group on Disability Statistics Question Sets. 2020.

◆ 国連障害者権利条約の政府レポートに国際比較できる障害統計を示すことが推奨されている。

４． WG-SSについての留意点

(i) WGの指標の活用は、**「障害発生率の推定」**と「（障害による）**排除の程度を測ること（障害の有無（および障害者の中の男女）による就労、教育機会、プログラム参加などの差を示す：disaggregate）」**

(ii) WG-SSの限界：

① 心理社会的障害がある人を見過ごしやすい → WG-SS Enhanced, 心理社会モデュール

② 子どもを正しく判定できない → WG-CFM

③ 参加・環境の指標がない → 環境モジュール （労働力、教育、その他）

(iii) WG-SSが使えない場面：①診断、②サービス受給者の判定

(ⅳ) よくある質問：①長期・短期の区別、②補装具・介助者の使用、③色素欠乏症、低身長症、顔面神経麻痺などは、追加の質問を用意して対応する。

文献 3) Washington Group. An Introduction to the Washington Group on Disability Statistics Question Sets. 2020.

Ⅳ　将来的な対応について

１． 拡張質問群とWG-SS強化版

- 今回の国民生活基礎調査の変更により、WG-SSが追加され、統計のより充実が図られることは適当
- ただ、WG-SSは、「視覚」「聴覚」「移動」「認知」「コミュニケーション」「セルフケア」の６項目について、各１問にとどまる。
- そこで、WGでは、詳細な状況把握を念頭に、**拡張質問群（extended set）**についてもまとめている。拡張質問群は、WG-SSの６項目について質問を細分化するとともに、「上肢」「不安」「憂うつ」「疼痛」「疲労」の項目を追加（計37問）

〔アメリカの適用事例〕

- アメリカにおいて、4年に1回行われる「全国健康面接調査」で、拡張質問群を適用し、結果を分析
- 37問のいずれかについて、「できない」又は「かなり苦労する」に該当する場合に「障害」を有するものとして集計・分析したところ、人口の40%が、何らかの形で障害を有する結果。加えて、調査事項が多く、報告負担も小さくない。
- 一方で、WG-SSの6問だけでは、知的・精神的な支障が漏れるほか、上肢機能の制限も漏れる

↓

- 試行錯誤の結果、アメリカは、WG-SSに拡張質問群のうち、「上肢」「不安」「憂うつ」に関する６問を加えた**WG-SS強化版（Enhanced）**を提案

（参考）WG-SS強化版における追加質問群

区分	WG-ES　Because of a health problem :	拡張質問群　健康の問題により :
上肢	UB_1 [Do/Does] [you/he/she] have difficulty raising a 2 liter bottle of water or soda from waist to eye level?	UB_1 あなたは（彼は/彼女は）、2リットルの水かソーダのボトルを腰から目の高さに持ち上げることに苦労しますか？
	UB_2 [Do/Does] [you/he/she] have difficulty using [your/his/her] hands and fingers, such as picking up small objects, for example, a button or pencil, or opening or closing containers or bottles?	UB_2　あなたは（彼は/彼女は）、手と指を使って、ボタンや鉛筆のように小さなものをつまんだり、容器や瓶の開閉に苦労しますか？
不安	ANX_1 How often [do/does] [you/he/she] feel worried, nervous or anxious?	ANX_1 あなたは（彼は/彼女は）、どのくらいの頻度で不安になりますか？（毎日、毎週、毎月、年に数回、ない）
	ANX_3 Thinking about the last time [you/he/she] felt worried, nervous or anxious, how would [you/he/she] describe the level of these feelings?	ANX_3　あなたは（彼は/彼女は）、前回、そういう気分になった時は、どの程度でしたか？（少し、かなり、ひどく）
憂うつ	DEP_1 How often [do/does] [you/he/she] feel depressed?	DEP_1　あなたは（彼は/彼女は）、どのくらいの頻度で憂うつになりますか？
	DEP_3 Thinking about the last time [you/he/she] felt depressed, how depressed did [you/he/she] feel?	DEP_3　あなたは（彼は/彼女は）、前回、憂うつになった時は、どの程度でしたか？

文献 6）The Washington Group Extended Set on Functioning (WG-ES) (2020)

２．WG-SS強化版とＫ６

➢WG-SS強化版の項目のうち、「不安」「憂うつ」といった精神的な問題の程度を表す関連指標としては、従前から**「Ｋ６」**が各国で利用

〔K6〕

- 米国のKesslerらによって開発
- 心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用
- 以下の６問について５段階（「まったくない」「少しだけ」「ときどき」「たいてい」「いつも」）で点数化

① 「神経過敏に感じましたか」
② 「絶望的だと感じましたか」
③ 「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」
④ 「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」
⑤ 「何をするのも骨折りだと感じましたか」
⑥ 「自分は価値のない人間だと感じましたか」

➢<u>日本では、Ｋ６については、国民生活基礎調査（健康票）で既に導入済</u>

３．今後の可能性についての私見

- 更なる統計の充実を考えたとき、将来的には、WG-SS強化版の検討も必要。
- しかし、WG-SS強化版はアメリカ以外での検証例がなく、国際標準に至っていない。
- また、「不安」「憂うつ」については、Ｋ６で対応できる可能性あり。

↓

基幹統計調査としての調査負担の増加については慎重であるべきだが、将来的課題として、最小限の項目追加について、今後の各国の状況を注視しつつ、検討の余地があると思料。